当院における休日の血液培養陽性時の対応について

◎阿部 智哉[1)]、井上 あゆ子[1)]、渡邊 真由美[1)]
山形県立新庄病院[1)]

【はじめに】血液培養検査（以下「血培」）は感染症診療において必要不可欠である。当院では、2018 年 4 月より抗菌薬適正使用チーム（以下「AST」）が発足し、それに伴い休日の血培陽性時の対応について検討を依頼された。検査部で検討し、休日における血培陽性報告を行なうこととなった。当院における休日の血培陽性時の運用方法と実施状況について報告する。

【運用方法】①検査内容：AST ミーティングにて検討し、休日の血培陽性時、グラム染色像の結果報告は必須、夜間の報告不要とのことから、検査部では休日日直帯、グラム染色像の報告とサブカルチャーを実施することとした。②血培陽性時対応技師（以下「血培当番」）の選出：当院は県の施設なので病院や保健所との異動があり、細菌検査経験者が比較的多い。この利点を生かし、経験者に実技指導を行い育成し、細菌検査担当者を含め 10 名で運用することとした。③休日の血培当番体制：血培当番が通常の宿日直当番を兼ねることで、休日の血培陽性時、迅速に対応可能な体制を構築した。④結果報告：休日は主治医が不在のことも多いため看護師を通じ当番医への報告、電子カルテに第一報報告を行うこととした。

【実施状況】2018 年 9 月から運用開始し、2019 年 5 月までの総血培提出件数 448 件、陽性件数 104 件、休日の血培陽性件数 25 件であった。内訳は、グラム陰性桿菌 18 件、グラム陽性球菌 7 件で、血培当番が報告したグラム染色像との乖離はなかった。また、この期間血培処理に携わった血培当番は 9 名であった。

【まとめ・課題】今回、AST からの要望で休日の血培陽性時の対応を検討し運用を開始した。当院にとって適切な運用方法を構築できた。血培当番を経験者から選出したことで実技指導もスムーズであった。休日の血培陽性対応により、第一報報告までの時間短縮に貢献できた。現在、臨床にはグラム染色像の報告と、サブカルチャーの実施をしているが、今後は臨床側が何を求めているか、AST 内で話し合いを重ね、休日の同定・感受性検査報告の実施も視野に入れ検討していきたい。

山形県立新庄病院細菌検査室－0233-22-5525（内線 1521）